おおいた国際交流プラザ
OITA INTERNATIONAL PLAZA
La Estación

vol.36
2012

ラ・エスタシオン
スペイン語で、局や駅の意。当誌が県内の国際交流・協力情報の発信地として、広く親しんでいただけるよう願いを込めてつけました。

寄稿　国際交流は何のためにするのか
第6回「在住外国人に対する地域日本語教育の役割と意義」……1-2
自治体の紹介　佐伯市……3
団体の紹介　7カ国語で話そう! ヒッポファミリークラブ……3
国際的に活躍している人々の紹介……4
王君栄氏
JICAデスク大分からのお知らせ……4
Event Calendar……5-6
私たちの声を聞いてください!……7
エン　ベリンダ　ザギタ氏
Information……7
イベントの報告……7

（財）大分県文化スポーツ振興財団

「ローテンブルク」（ドイツ）
写真：工藤　聡美

わたしたちの声を聞いてください!

「ロンボク島について」

エン　ベリンダ　ザギタ

日本に来て、約3年間経ちます。日本人と外国人の人達に聞いたら、皆はインドネシアというとバリ島についてしか知りません。

バリ島は観光地として世界中に大変有名ですが、インドネシアにはバリ島よりも綺麗な観光地があります。それはロンボク島です。

ロンボク島はバリ島の東にあります。多くの観光客はバリ島やジャカルタやシンガポールなどから飛行機でロンボク島に行きます。ロンボク島にはバリ島の文化もあって、綺麗なビーチや山などがあります。多くのロンボク島の島民はイスラム教、次いで、ヒンドゥー教です。観光客があまりいないので、自然が多く、あまり賑やかではありません。ロンボク島の代表料理はアヤムタリワンという料理です。この料理の味はとても辛いので、日本人ならロンボク島に胃腸薬を持っていった方がいいです。有名な飲み物はツアクです。ツアクは発酵したヤシのジュースで作られた飲み物です。

インドネシアに行く時には、いくつか気をつけた方がいいことがあります。それは、飲み物と食べ物の味が日本と全然違うので、胃腸薬を持って行くことです。インドネシアでは、水道水は飲めません。また、買い物をする時に日本語を喋らない方がいいです。なぜかと言うと、日本語を喋ると値段がすごく高くなるからです。他には、デパートとレストラン以外の公共のトイレは10円ぐらいがかかるので、気をつけて下さい。

いつかバリ島ではなく、ロンボク島にも来て下さいね。

INFORMATION

おおいた国際交流プラザでは、毎月国際交流・協力活動を行っている個人・団体の活動紹介のためのギャラリー展を行っています。

- **展示期間：1ヵ月**
- **展示費用：無料**

これまで多くの個人や団体の活動写真展や、書・絵画の発表、外国人の出身国の紹介などをしてきました。

★大分県民に自分達の活動を紹介したいという方のお申込みをお待ちしております。

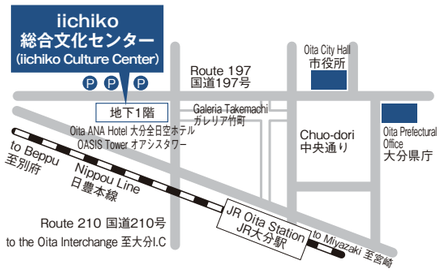
展示したい方は、申込書をホームページでダウンロードし、あるいはプラザで受領して、FAX、E-mailまたは直接提出して下さい。
ダウンロードのリンク：
http://www.oitaplaza.jp/japanese/uploads/photos1/159.pdf

※掲示内容に関するトラブル等は責任を負いかねますのでご理解ください。

イベントの報告　『フランス文化理解講座』

今年度、「風習・マナー編」、「音楽・美術編」、「芸能・ファッション編」というテーマの中国・韓国・フランスの外国文化理解講座を開催しました。2月25日（土）に行われた「フランスのファッション」というテーマの講座が、今年度最後で、フランス人国際交流員のアンブルさんがフランス発祥のブランドや年代別の流行などを、たくさんの写真を使って紹介してくれました。この外国文化理解講座は、「国際交流」のためだけに開催したのではありません。外国人に対して「留学生」や「いつか国に帰る人」などと考えている人が多く、同じ「住民」と認識している人が少ないため、今回のイベントをきっかけに、大分にも色々な国の外国人が住んでいることや、お互いの違いを知り、受け入れていくことが大切だと実感していただけることを目的に開催しました。来年度も色々なイベントを開催します。ぜひご参加ください!

フランス文化理解講座の様子



おおいた国際交流プラザ
La Estación ラ エスタシオン 2012 vol.36
発　行　日　平成24年3月28日（奇数月末発行予定）
編集・発行　㈶大分県文化スポーツ振興財団
国際交流課
〒870-0029 大分市高砂町2番33号
iichiko総合文化センター地下1階 iichiko Space Be内
開館時間：9：30～19：00
閉館日：日曜日・祝日及び第2・4月曜日とその週の土曜日※ただし閉館日が祝祭日の場合はその翌日
TEL：097-533-4021　FAX：097-533-4052
E-mail：in@emo.or.jp　Twitter：@oitaplaza
URL：http://www.oitaplaza.jp/

寄稿　国際交流の意義と目的
国際交流は何のためにするのか

第6回
「在住外国人に対する地域日本語教育の役割と意義」

今年度は「国際交流は何のために行うのか」と題して、様々な視点から国際交流の意義と目標について解説していただきます。寄稿者は、国際関係、歴史学、在住外国人支援等、色々な分野の方にお願いしています。今回は、浜松国際交流協会の堀永乃さんの寄稿です。

はじめに

静岡県浜松市は南に太平洋、北に日本アルプス、西に浜名湖、東に天竜川をのぞむ、自然豊かな街で、スズキ、ホンダ、ヤマハといった世界有数の企業の本拠地があり、近年では高度光技術の成長が著しい、製造業が盛んな都市である。1990年入管法の改正によって「デカセギ」として来日した南米系外国人の人口は増加の一途をたどり、ピーク時には全人口の約4%を占めるほどの外国人集住都市である。そのため浜松市では長年にわたり地域の多文化共生社会の推進に向けて、様々な施策を講じている。

デカセギの外国人は派遣労働者という不安定な雇用条件のなか、母国への送金のために1円でも高い賃金を求めて、3K（汚い、危険、キツイ）の職場で昼夜なく働いていた。しかし、2008年の秋、アメリカを発端にした世界的金融危機の影響で、多くの外国人派遣労働者が失職を余儀なくされ、職ばかりか住居や子弟教育の機会までを失う事態となった。

連日100人を超える外国人がハローワークに詰めかけ、すがる思いで求職をするも日本語能力が不足していることを理由に、再就職は困難を極めた。もしかすると、この危機がなければ行政は在住外国人への日本語教育の重要性を意識し、具体的な実践について議論することはなかっただろう。当事者である外国人はこの時期初めて、自らの日本語力の不足を痛感し、その必要性を実感し、日本語学習を求めるようになった。

では、一体自治体や地域が行う「地域日本語教育」とは、どうあるべきなのだろうか。

地域のための日本語教室

企業内日本語教室

フィリピン人のための教室

浜松市は1982年から市の事業として、外国人と日本人との間に生じる様々なトラブルに対処するため、外国人のための日本語教室を開講してきた。従来の教室は、テキストを使用した文型積み上げ式で、その内容は講座を担当する日本語ボランティアに委ねられ、毎回30人程度の外国人が参加していた。しかしながら、受講者数は外国人全人口の比率から考えると非常に少なく、途中離脱者も数多かった。それは2006年に浜松市が実施した調査の結果でも明らかで、「現在日本語を学習していますか」の問いに対し「いいえ」と答えた人が80.2%もいた。その理由を具体的に把握するため外国人にヒアリングをしてみたところ、彼らの本音は「日本語教室に通っても、いつまでたっても上達しないから」だった。彼らは仕事上や生活上に日本語が必要だとわかっていても、その内容がニーズに合わなかったりすると途中離脱してしまったのである。

浜松市には行政窓口や病院に通訳が配置され、多言語での情報提供サービスが充実している。また、エスニックビジネスが発達しており、レストランや雑貨店、母国語の新聞や雑誌もあり、美容院も教会もある。このように外国人は母国語で生活することができ日本語ができなくてもあまり困らない状況がある。

それでも、彼らは日本語を学ぶ必要性を確かに感じていた。ただ、これまでの日本語教室では、たとえどんなに時間とお金と労力をかけても、彼らは満足した学習ができなかったのである。

そこで浜松国際交流協会は、この現状を打破するために外国人労働者を多く雇用する企業に協力を求め、企業のなかで外国人労働者のための日本語教室を行った。職場内で外国人の日本語を学ぶ環境が整うことにより、彼らの日本語学習は保障され、能力が向上し、ひいては日本人とのコミュニケーションができると考えたからだ。しかしながら、企業のほうは「品質と技術の向上」が第一義的目的で、日本語教育は手段の一つにすぎなかった。それでも双方の目的は達成されるので、この教室の存在は大きな意義があった。とはいえ、従来のやり方しか知らないボランティアにもコーディネーターにとっても、この教室の運営はいつも試行錯誤の連続だった。それは、企業から「なかなか日本語能力が伸びない教室よりも、1回完結型で達成感のある教室づくり」を求められたからである。

現場との連携

マクドナルドとの協働

企業からの指摘で、我々はすぐに従来の文法積み上げ型指導法をやめ、1回完結型で様々な人や機関によるリアルなコミュニケーション場面を再現し、その場面でのコミュニケーション活動を通して、外国人が日本語を習得することのできる教室づくりを目指した。この教室で外国人は、日本の文化や習慣、日本人との価値観の違いなども知り、日本社会において生きる戦略として日本語を習得することができた。日本語教室には、マクドナルド、大手ドラッグストア、消防署、警察が参加して、実践的な日本語を使う練習をふんだんに取り入れた。自然に笑顔があふれる楽しい教室には実に様々な人々が積極的に関わるようになっていった。

このように所属も年齢も異なる様々な人々が関わり、日本語教室という場において一つの活動を協働することによって、はじめて教室は外（社会）に拓かれる。そして、日本人と外国人との相互理解と交流が深まる活動へと変わっていく。企業内日本語教室では離脱者がいなかった。こうした現場との連携による豊かなコミュニケーションを起こすことで、日本語教室は良好な人間関係を育む活動へとつながっていった。多文化共生社会に資する地域日本語教育とは、地域の様々なファクターが協働しあい、社会を創造する取り組みであるべきだ。

日本語ボランティアに対する期待

地域の日本語教育活動が、その地域に居住する全ての人に認知される活動になるといい。そのため、日本語ボランティアには外国人に対し「この街で生きていられる」と自活できるよう勇気づける支援を行い、「もう大丈夫よ」と背中を押す人になってもらいたい。反対に、日本人には「あなたの日本語、もう少しやさしくなりませんか」と助言し、「こんなに頑張っている外国人を地域住民として受け入れていきましょう」と啓発してほしい。まるで社会における二つの文化や人の間にある透明の回転扉の番人のように。

参考資料
・「浜松市における南米系外国人の生活・就労実態調査報告書」（2007年3月、浜松市）
・平成19年度文化庁日本語教育研究委嘱「外国人に対する実践的な日本語教育の研究開発報告書」（2008年3月、社団法人日本語教育学会）
・「平成20年度文化庁委嘱事業企業内日本語教室カリキュラム開発報告書」（2009年3月、公益財団法人浜松国際交流協会）
・「日本語学」（2009年5月、明治書院）

Profile

堀　永乃（ほり　ひさの）

公益財団法人浜松国際交流協会（HICE）主任。大学卒業後、企業勤務の傍ら浜松市の日本語教室等でボランティア活動を行う。2002年10月よりコーディネーターとして市内や企業内における日本語教育支援事業や国際交流事業等の諸事業を企画・運営。現場重視をモットーに、在住外国人のための日本語教育と就労支援を国や県、関係団体と連携・協働した事業に取り組む。「地域と企業と行政の連携による多文化共生社会のための日本語教育支援の提言」（平成19年度文化庁）、「企業内日本語教室カリキュラム開発」（平成20年度文化庁）、「日本語学」（明治書院：2009年5月臨時増刊号）、「介護のための日本語教室」（平成20年度文化庁）、「多文化共生社会に資する「生活者」のための日本語教育とは」（共著、浜松学院大学2010）など。

自治体の紹介 佐伯市 SAIKI

佐伯市とオーストラリアとの国際交流について

佐伯市教育委員会教育総務課

佐伯市は、平成17年3月3日、旧佐伯市と南海部郡の1市5町3村が合併し、面積903平方キロメートルの、九州で最も広い市『佐伯市』が誕生しました。海、山、川の豊かな自然と食に恵まれた、大分県南の産業・経済の中核地であり、歴史ある城下町でもあります。

そんな佐伯市が、オーストラリア・グラッドストン市と姉妹都市を締結したのは、平成8年9月4日。オーストラリア連邦クイーンズランド州グラッドストン市は、州都ブリスベンの北550キロメートルの海岸部に位置し、グレートバリアリーフの南端に面しています。市街地の人口は、約27,000人で、周辺部を含めると、約6万人の人口を有しています。グラッドストン港は、年間3,800万トン以上の荷物を扱うオーストラリア有数の貿易港で、なかでも石炭の輸出は世界第4位を誇っています。

グラッドストン市と姉妹都市を締結して以来、様々な交流を通し、両市は友好関係を深めてきました。両市は友情の証として、グラッドストンには茶室と日本庭園、佐伯市には大入島に「カンガルー広場」を整備しました。その他には、教育国際交流の一環として、隔年で市内中学生をグラッドストン市の姉妹校等に派遣しています。また、同市からの学生訪問団の受入れを行ったり、市民を募って隔年でグラッドストン国際文化祭に参加し、ホームステイや異文化交流などを行っています。

昨年は姉妹都市締結15周年を迎えたことから、11月にグラッドストン市長ゲイル・セラーズ氏をはじめとする公式訪問団が佐伯市を訪れ、「カンガルー広場」での記念植樹、市内観光や施設見学のほか、市内の企業視察、料理人同士の交流などを行いました。

日常生活や経済活動において、世界との結びつきが深まる中で、豊かな地域社会をつくるため、外国青年や海外の提携都市等との交流を通じて、国際化に対応したまちづくりを進めてまいります。

グラッドストン市公式訪問団　佐伯市訪問

大分の国際交流団体の紹介

7カ国語で話そう! ヒッポファミリークラブ

7カ国語で話そう!　ヒッポファミリークラブ
- 〒870−1171　大分市鬼崎576−2
- TEL 090-1976-5192(安達里実)
- HP http://www.lexhippo.gr.jp/
- 大分hippoブログ http://oitahippo.blog114.fc2.com/

赤ちゃんから大人まで国籍や年齢に関係なく、楽しく世界の言葉を身につけています。あなたが今、話している日本語は、子どもの時に文字から学びましたか?文法も単語も勉強していないのに話せるのはなぜでしょうか?それは、あなたが日本語の環境の中で赤ちゃんの時から過ごしているからなのです。私たちはこのことを自然習得と呼んでいます。言葉が聞こえてくる環境の中で過ごしたら、誰でも何語でも何歳からでも話せるようになります。

定例活動は中津(ダイハツアリーナ)、宇佐(四日市コミセン)、別府(あすなろ館)、大分(コンパルホール)など市内の公民館でしています。最近は、高校生や大学生の参加も増え、多言語の習得は受験、就活にとても強い味方。また社会人にとっては、スキルUP、海外転勤・出張の際にも役に立ちます!!ヒッポが縁で結婚した方も!大家族のような、あたたかい環境で言葉やコミュニケーション能力、生きる力を育てています。また、小中学校の国際理解授業のボランティアもしています。みんなが世界のいろんな言葉で話せたら、大分がもっとゆたかになると思います。

「頭のよくなる魔法のじゅもん体操」は、赤ちゃんから大人まで大人気!一度遊びに来てみませんか?海外のメンバーや留学生と定例活動や、国際交流パーティー、料理会、ホームスティなどを通してお互いの文化を学びます。国内・海外ホームスティ、高校留学など多種多様なプログラムがあり、世界中にかけがえのない家族や友達ができます。あなたにとって一生忘れられない素晴らしい経験、思い出がたくさんできることでしょう。

少しでもヒッポファミリークラブの活動に興味を持った人は連絡をお待ちしています。

ロシアにホームステイしたよ!

高校留学の仲間達!

MIT 言語学スザンヌフリン教授の講演会

人物の紹介 ～国際的に活躍している人々の紹介～

今回は中国江蘇省溧陽市駐日本代表事務所長としてご活躍されている王君栄さんを紹介します。

王さんは敦煌がある甘粛省の出身。省の外事弁公室（国際交流担当部署）に勤め、1997年に大分県の国際交流員として来県されました。一旦帰国されたあと再び来県し、県国際交流センター勤務等を経て、現在の中国江蘇省溧陽市駐日本代表事務所長として、溧陽市への企業誘致活動等に奔走されています。

あまりに日本語が上手なために、見た目では外国人とは思えません。中国語で話すと「王さん中国語うまかったんだね。」などと言われたりします。そういうことですから通訳はお手のもの。大分県ベンチャー協議会等の企業の方々と毎月１回程度は中国へ出張するそうです。「日本＝中国間はもう通算140往復はしたと思いますよ。」と王さん。

また、事務所へ相談に来るお客さんも多いようです。中国の会社との交渉でのトラブルを電話１本で解決したり、いい方法をアドバイスするなど大変喜ばれています。

こうして、地域の国際化の推進にも貢献したことで、平成18年11月に総務大臣から表彰を受けました。

忙しい毎日ですが、余暇には家族で県内外へ旅行するのが趣味とのことです。来県当時小学生だった息子さんはもう社会人。会社の海外部門で頑張っているそうです。

さらに、王さんは「日本と中国は経済的に切っても切れない関係にあります。アジアの大国である両国はもっと仲良くしなければ。私なりに中国を理解してもらうよう努力しています。」と意欲を燃やしています。

大分県に住んで通算12年。最初から何一つ困ったことはないという王さんですが、本場中国から見た日本の中華料理の味は、「少し甘すぎる」とのことで、まだ本当においしい中華料理には出会っていないようです。

取材：和田慎一郎

王君栄さん

JICA(ジャイカ) デスク大分からのお知らせ

今回の『JICAデスク大分からのお知らせ』は、新国際推進員の渡辺が、着任のご挨拶と合わせて、2012年青年海外協力隊の春募集のお知らせと、参加説明会実施のご案内をお届けします。

【こんにちは！新しく着任した国際協力推進員です。】

2012年3月より、JICAデスク大分の国際協力推進員に着任いたしました、渡辺了孔（わたなべりょうこ）です。2010年1月から2年間、モンゴルで青年海外協力隊として活動しました。職種は視聴覚教育で、セレンゲ県教育文化局の教育スタジオで教育番組制作の実務指導を行っていました。2012年1月にマイナス30度の極寒の世界から、温暖な大分に帰国したばかりです。今は日本の生活に慣れるのに必死です。いろいろなことに驚いたりしています。(トイレがどこにでもある! 海がある! 冬に雨が降る! 関アジ関サバがある!!)大分のみなさんに国際協力について、JICAボランティアへの参加のお手伝いをいたしますので、よろしくお願いします。

セレンゲ県教育局のみなさんと
（写真右、渡辺国際協力推進員）

【JICAボランティア春募集のお知らせ】

JICAボランティア春募集が始まります。平成24年度春募集の受付期間は、4月1日(日)から5月14日(月)までです。

大分県での募集説明会は、4月14日(土)14:00から、コンパルホール3階303,304会議室で開催します。当日は、活動紹介ビデオ上映、制度説明、協力隊OB・OGによる体験談を行います。個別相談も承ります。「協力隊って何だろう？」から「参加してみたいので具体的に」という方まで、是非お越しください。

また、協力隊OB・OGによる “協力隊NAVI”が、毎月第２水曜日にiichiko総合文化センター1階で実施されています。世界各国で活躍した大分県出身の協力隊OB・OGの体験なども聞けますよ。グローバルな世界にご興味のある方、お気軽にお越しください。

国際協力推進員の渡辺(わたなべ)までいつでもどうぞ
〒870－0029　大分市高砂町2－33　iichiko 総合文化センター地下１階　国際交流プラザ内
TEL：097－533－4021　FAX：097－533－4052　E-mail：jicadpd-desk-oitaken@jica.go.jp

JICA ジャイカ よりよい明日を　世界の人々と

Event Calendar
イベントカレンダー

APR 4 ▶▶▶ MAY 5

プラザのカウンセリング・各相談室のご案内

カウンセリング
場所：iichiko総合文化センター　B1F　おおいた国際交流プラザ
お問合せ先：TEL：097-533-4021　FAX：097-533-4052
E-mail：in@emo.or.jp

中国語無料相談
第2・第4火曜日と木曜日
時間：火曜日：13：00～16：00
木曜日：10：00～13：00
会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
相談員：児玉　文玉（こだま　うぇんゆう）
相談料：無料
※県内在住中国語圏の方のための相談室です。

タガログ語無料相談
毎月第1土曜日と第3火曜日
時間：13：00～16：00　会場：国際交流プラザ
申し込み：不要　相談料：無料
相談員：吉武ロドラ（大分県フィリピン友好協会 会長）
※悩み事を抱えている方、タガログ語で気兼ねなく話をしたい方はプラザにお越しください。

入国・在留国籍手続無料相談
毎月第1日曜日
主催：ライフサポート大分
時間：13：00～16：00
会場：国際交流プラザ
相談料：無料　予約：必要
対応言語：日本語・英語
※主として法律相談ですが、それ以外の内容でもお困りの場合はご来館ください。また、相談内容が外にもれることはありません。お知り合いの外国籍の方がトラブルや悩みを抱えている場合には、その方にぜひお伝えください。外国の方とのかかわりの中でお悩みの方の相談も受け付けます。

在住外国人のための無料相談
毎月第3水曜日
時間：13：00～16：00　会場：国際交流プラザ
申し込み：不要
※ただし、日本語、英語以外による相談は、通訳手配のため、2日前までに要予約。
相談員：伊藤精（行政書士）
相談料：無料
※県内在住外国人のための相談室です。

APR

1日（日）入国・在留国籍手続無料相談（毎月第1日曜日）
時　間：13：00～16：00
会場：国際交流プラザ
主　催：ライフサポート大分

7日（土）タガログ語無料相談
時　間：13：00～16：00
会　場：国際交流プラザ

7日（土）日本語deトーク
国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?
テーマ：なし（フリー・トーキング）
時　間：13：00～14：30
場　所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】
定　員：10名（先着順）**※予約必要**　参加費：無料
TEL：097-533-4021
E-mail：wada@emo.or.jp

17日（火）タガログ語無料相談
時　間：13：00～16：00
会　場：国際交流プラザ

18日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）
時　間：13：00～16：00
会　場：国際交流プラザ

18日（水）在住外国人のための無料健康相談巡回診療（毎月第3水曜日）
時　間：14：30～15：30
会　場：国際交流プラザ

MAY

12日（土）タガログ語無料相談
時　間：13：00～16：00
会　場：国際交流プラザ

15日（火）タガログ語無料相談
時　間：13：00～16：00
会　場：国際交流プラザ

16日（水）在住外国人のための無料相談（毎月第3水曜日）
時　間：13：00～16：00
会　場：国際交流プラザ

16日（水）在住外国人のための無料健康相談巡回診療（毎月第3水曜日）
時　間：14：30～15：30
会　場：国際交流プラザ

26日（土）日本語deトーク
国際交流プラザでは日本人と外国人の相互理解を目的に、毎月土曜日に日本語deトークを開催します。この日本語deトークでは、日本人と外国人が各国の文化の違いなど、毎回異なるテーマに沿って日本語で話し合いをし、気軽に交流をします。日本人、外国人のことを知ってもらいたい方、理解したいという方、もちろん、「何だかおもしろそう!」という好奇心旺盛な方も大歓迎です。興味があるテーマに気軽に参加してみませんか?
テーマ：「映画」
時　間：13：00～14：30
場　所：iichiko総合文化センター B1F【国際交流プラザ】
定　員：10名（先着順）**※予約必要**　参加費：無料
TEL：097-533-4021
E-mail：wada@emo.or.jp

健康相談

なでしこプラン～健康相談巡回診療～
まず、ご相談を！
●健康が不安、どこに相談すればいいの？
●体調が悪いけど、医療費の支払いが心配。
県内在住外国人で、低所得（住民税非課税世帯等）の方、失業等による急な所得低下の方、DV被害の方、医療費にお困りで病院を受診できない方、医療や福祉に関することで、誰に相談してよいかわからない方など、ご利用ください。
済生会日田病院は、巡回診療班を派遣し、健康相談と無料又は低額診療（基準は世帯収入が生活保護基準の1.5倍以下）を実施しています。

対　　象：県内在住外国人
実施日時：毎月第３水曜日　14：30～15：30
平成24年４月18日、５月16日、６月20日
場　　所：iichiko総合文化センターB1F【国際交流プラザ】
内　　容：健康相談と診療
生活状況は医療相談員が面談等で確認いたします。
そ の 他：健康保険証をお持ちの方は、当日、持参してください。
お問合せ：社会福祉法人恩賜財団済生会支部
大分県済生会日田病院
〒877-1292　日田市大字三和643-7
TEL　0973-24-1100
担当医療相談員　井口、金子、横松、小野
※事情により日程が変更となる場合がございます。
事前にご確認をお願いします。

OITA INTERNATIONAL PLAZA EVENT
おおいた国際交流プラザイベント
日本語deトーク

日本語deトークとは?
日本人と外国人が日本語で会話をするイベントです。
外国人の方は日本語能力の向上となり、
日本人の方は日本語で気軽に国際交流ができます。
あなたも参加してみませんか?

スケジュール
4月　7日（土）：「フリートーク」
5月26日（土）：「映画」
時間：13：00～14：30
場所：iichiko総合文化センター　国際交流プラザ（B1F）
定員：10名（先着順）**※人数把握のため要予約**
参加費：無料
お問合せ：国際交流プラザ　097-533-4021　in@emo.or.jp

OITA INTERNATIONAL PLAZA EVENT
おおいた国際交流プラザイベント
Japanese Chat

Japanese Chat @ Oita International Plaza
Come to the International Plaza to chat in Japanese and meet locals! These monthly meetings provide a space for international exchange and a chance to practice Japanese conversation. Come check it out!

Dates & Topics
April 7th　"Free Talking"
May 26th　"Movie"
Time: 1pm - 2:30pm
Place: Oita International Plaza (iichiko Culture Centre B1F)
*Space is limited to 10 persons.
Please contact us to reserve your space and confirm dates before coming!
Contact: Oita International Plaza　TEL: 097-533-4021　Email: in@emo.or.jp

twitter でフォローして下さい：@oitaplaza
www.oitaplaza.jp